

RIST創立30周年に寄せて

熊本県知事
蒲島 郁夫



この度、くまもと技術革新・融合研究会が創立30周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。また、会員の皆様には、日頃から県政の推進に多大な御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

くまもと技術革新・融合研究会は、平成元年の創立以来、大規模な産学官共同研究の実施など、30年の長きにわたって本県の産学官連携の先導役として活動してこられ、技術開発の立場から県内ものづくり企業の成長・発展の一助を担っていただいております。

企業が市場競争を勝ち抜くために、安定した経営を確保しながら、常に最先端の技術を追い求めることは容易ではありません。また、効率的かつ革新的に自社技術の発展を実現するためには、自社の壁を越え、様々なパートナーと手を取り合うことも必要となります。

こうした中、産学官が連携して最先端の技術を検討する場である、くまもと技術革新・融合研究会は県内企業にとって重要な存在であると思います。しかしながら、くまもと技術革新・融合研究会が歩んでこられた30年間の道のりは決して平坦ではなかったと思います。平成20年のリーマンショックをはじめ、平成23年の東日本大震災、そして県内産業に甚大な被害をもたらした平成28年4月の熊本地震など、多くの困難が起きました。末吉会長をはじめ歴代の会長並びに関係者の御尽力により、こうして困難を乗り越え、輝かしい功績を築いてこられたことに深く敬意を表します。

さて、この30年の間に起ったことは困難ばかりではありません。県内では、九州新幹線の全線開通、熊本市の政令指定都市への移行、万田坑、三角西港、天草の崎津集落の世界文化遺産登録など、明るい出来事も多くありました。

特に、くまモンの登場は県民の幸福量を大きく引き上げてくれました。九州新幹線全線開業に伴うおまけのキャラクターとして誕生したくまモンですが、その後、数々の挑戦を続けてきた結果、その活躍の場は、今や世界中へと広がり、熊本の知名度の向上や熊本の経済の発展に大きく貢献してくれています。

このように、「皿を割る」ことを恐れず挑戦し、不可能を可能にしていくことは大変重要なことであると考えております。

今後とも、くまもと技術革新・融合研究会には、伝統ある本県の産学官連携の組織として、地域に根ざした研究を推進し、先進的な技術開発テーマにも挑戦することで、県内企業の成長と発展に御貢献いただくことを期待しております。

県としましても、昨今の、IoT、ロボット、人工知能、ビッグデータという第4次産業革命の大きな潮流をしっかりと捉え、生産性の向上や人材育成の支援に積極的に取り組んで参りますので、一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、くまもと技術革新・融合研究会のさらなる発展と、関係者の皆様方の御活躍をお祈り申し上げます。